

## どもる子どものレジリエンスを育てる対話

千葉県立検見川小学校 出口 絃子

### 1 はじめに

20年前、学級担任サポートという立場の2年間の講師時代を経て、自分の学級をもてた私は、とにかくうれしくてしかたなかった。安心できる温かい教室の中で、子ども一人一人がのびのびと自分の力を発揮できるクラスにしたいと考えたことをよく覚えている。失敗や困難はあったが、幸せで充実した教師生活だった。放課後は子どもたちのお喋りに花を咲かせた。毎日、数人が代わる代わる教室に残り、クラス全員の前では話せない内容で盛り上がる。家族、友達、恋愛など、話は尽きなかった。集団の中では表れない思い、届かなかった声を受け取ることもできた。じっくり話してみないと、分からないことがたくさんあると実感していた。

第1子の産前産後休暇・育児休暇の後、学級担任として現場に戻ったとき、安全上の問題から、放課後に子どもが自由に残ることはできなくなっていた。在校時間内に話を聞くように努めたが、一人一人の思いを汲み取れていないような気がして、中途半端になってしまう。そんな思いを抱えたまま、第2子の産前休暇に入った。

もやもやした気持ちをきこえの教室に転向していた同期の仲間に相談したところ、通級指導教室でなら、子どもの話を丁寧に聞きたいという私の願いは叶えられると知った。復帰後、1年間の特別支援学級の担任を経て、私はことばの教室の担当者になった。

以前、自分のクラスにいる発音の誤りがある子どもが通っていたため、ことばの教室が発音を改善する場所だという認識はあった。しかし、吃音には正直戸惑った。吃音についての知識はゼロで、どもる子ども、どもる人に出会った経験もない。さて、どうしようか困ったが、子どもから学んでいくしかないと感じを決めた。

私が初めて出会った子どもは、前任者から引き継いだ4年生だった。彼女は、自分の吃音と向き合い、心の揺らぎはあるものの、吃音にとらわれず学校生活を充実させていた。彼女は私の吃音の最初の先生になった。いろいろ話をしながら、思いや考えを教えてもらうことができた。並行して、書籍や先輩に教わったり、講習会などに参加したりして、吃音について学び、考えていった。

ことばの教室の担当を続ける中で、どもる子どもとの出会いが増えた。周りの目を気にして人前で話すことを諦める子ども、吃音を指摘されることへの不安から友達との関わりを避ける子どもなど様々だった。「チャレンジしたい」「友達ともっと仲良くなりたい」の気持ちが、吃音を理由に消されてしまうことに、もどかしさを感じた。

担当者として私にできることは何か。子どもの心の声を聞きたい。その子の世界に少しでも入れてもらいたい。それは、私がことばの教室の担当者になりたいと願った理由とつながる。そう考えて私は子どもと対話を重ねてきた。

その中で、どのような環境に置かれても自分らしく過ごせるように、しなやかな考えをもってほしいと思うようになった。私が捉えるしなやかさとは、レジリエンスということばに置き換えられることを最近知った。困難な状況の中で、傷ついたとしても回復する、やり抜く力といったようなものだ。教育の現場でも注目され始めている概念だ。それから私は、どの子どもの中にもあるレジリエンスを一緒に発見し、育てていくことを目指して対話している。

## 2 実践、研究にあたって

ネガティブな感情や思い通りに行動できない状況を吃音と結び付けず、子どもがもつ本来の力を発揮してほしいというのが私の願いだ。そのために、何か困ったり悩んだりしたとき、吃音にとらわれず多様な考え方で対処し、また前に進んでいこうとする心を育てたいと思っている。今までの対話を振り返り、子どもがもっているレジリエンスをどのように引き出そうとしたか考えたい。

### (1) レジリエンスの捉え方

レジリエンスがどのような要素で成り立つかは、様々な考え方が示されているが、私は7つの構成要素からレジリエンスを捉えることにした。<sup>1)</sup>

|         |  |
|---------|--|
| 洞 察     | 自分の問題に気づき、理解する。                              |
| 独 立 性   | 吃音と吃音から受ける影響を切り離し、吃音に支配されず、自分の人生に責任をもつ。      |
| 関 係 性   | 家族、友達、教員などの人間関係。親密で満足できる人間関係、結び付きを大切にす<br>る。 |
| イニシアティブ | 課題に自分で取り組み、自分の生きやすい環境に変えていく。                 |
| ユーモア    | 自分の欠点や弱点を人ごとのように笑い飛ばし、嫌な気分を開放する。             |
| 創 造 性   | 悩みの中から自分を解放し、表現力を養う。                         |
| モラル     | 吃音とともに、充実したよりよい人生を送りたいという希望をもつ。              |

### (2) 対話の進め方

子どもと対話するときの観点として、今、精神医療の世界で注目されているオープンダイアローグ<sup>2)</sup>

の原則である「対等性」「応答性」「不確実性への耐性」を意識しながら対話を進めた。<sup>3)</sup>

|              |   |
|--------------|---|
| 対 等 性        | <ul style="list-style-type: none"> <li>吃音は原因や治療法をはじめ、分からないことが多い。子どもにとっても担当者にとっても未知なもののため、対等な立場で一緒に考えていく。</li> <li>先入観をもたず、知識や経験にとらわれない無知の姿勢でじっくりと話を聞く。</li> </ul>   |
| 応 答 性        | <ul style="list-style-type: none"> <li>子どものことばを大切に受け止め、子どもの使ったことばをそのまま用いる。</li> <li>子どもが自分と向き合い、感じるままに語れるような問いかけをする。</li> <li>子どもが自分なりに考え、ことばにするまでの余白の時間をとる。</li> <li>子どものことばについて、感じたことや思ったことを応答する。</li> <li>表情や仕草にも意識を向け、ことばにならないサインも受け止める。</li> </ul> |
| 不確実性への<br>耐性 | <ul style="list-style-type: none"> <li>結論を急がず、混沌とした状態に耐えながら対話を進める。</li> <li>子どもの認識やことばの意味が変わってきていることを感じ取り、変化を見守る。</li> </ul>  |

### (3) 対話のツール

テーマのない対話に加えて、教材を組み合わせて活用することで、子どもが自分自身と向き合うことにつながり、対話が進んだ。

#### ① 市販の「学習・どもりカルタ」<sup>4)</sup>で遊ぶ \*別紙資料①

|    |   |
|----|---|
| 取組 | カルタ遊びを通して、吃音に対する様々な思いや考えに触れ、共感することばや気になる表現のあるカルタを選ぶ。                                    |
| 対話 | カルタを選んだ理由について対話する。吃音のある人たちと気持ちの分かち合いができた<br>り、吃音とともに生きるヒントを知ったりすることができる。吃音と向き合う第一歩にもなる。 |

② 自分の吃音カルタを作る \*別紙資料②

|    |   |
|----|---|
| 取組 | 吃音に対する自分の思いや考えをことば（読み札）と絵（絵札）で表す。                                       |
| 対話 | カルタに込めた気持ちについて対話する。ことばや絵を通して、自分の気持ちを素直に語ることで、吃音に対する自分の考え方を知ったり整理したりできる。 |

③ 吃音キャラクター<sup>5)</sup> \*別紙資料③

自分の吃音をイメージしてキャラクター化する。

|    |   |
|----|---|
| 取組 | 自分の吃音をキャラクターに例えて、絵や立体で表現する。   |
| 対話 | キャラクターで吃音の問題を外在化することにより、子ども自身と吃音が切り離される。キャラクターについて対話する中で、自分と吃音とを区別して客観的に認識し、語れるようになる。吃音に対する見方や考え方が変わってくる。 |

④ 吃音チェックリスト<sup>6)</sup> \*別紙資料④

吃音検査法に代わる「自己チェックリスト」を使って、自分の吃音の課題を理解する。

|    |  |
|----|--|
| 取組 | 3つの視点から、子どもが自分を見つめ、各項目の内容に答える。<br>○対人関係・人間関係のチェックリスト<br>○吃音に対する気持ちや考えのチェックリスト<br>○行動のチェックリスト |
| 対話 | 子ども自身と担当者が特に気になった項目について対話する。自分が抱えている問題に気付き整理することで、これから取り組むとよい課題が明確になる。                       |

⑤ 吃音の氷山<sup>6)</sup> \*別紙資料⑤

吃音氷山説に基づいて、吃音の問題を理解する。

|    |  |
|----|--|
| 取組 | 吃音の症状を水面上、吃音に対する思いや考えを水面下に描く。                          |
| 対話 | 吃音の状態と悩みの大きさは比例しないと知ることができるとともに、対話を通して自分の吃音の問題が明らかになる。 |

⑥ 言語関係図<sup>6)</sup> \*別紙資料⑥

言語関係図で吃音に対する自分の課題を理解する。

|    |   |
|----|---|
| 取組 | 吃音の問題（悩み）を3つの軸（視点）で積み木を使って表す。<br>X：自分の吃音の程度。どもるほど大きい。<br>Y：吃音に対する周りの反応。マイナスの反応ほど大きい。<br>Z：吃音に対する自分の気持ちや考え。否定的なほど大きい。          |
| 対話 | 表した立体について対話する。問題や悩みを小さくする方法や過去の立体と比較して気付いた変化などについても語れるようにする。問題を外在化することで、吃音と向き合うことができる。客観的に眺めたり触ったりして、吃音の課題に取り組めそうだと考えることができる。 |

⑦ 強みのワーク<sup>7)</sup> \*別紙資料⑦

自分の強みを発見し、日常生活に生かす。

|    |  |
|----|--|
| 取組 | ポジティブ心理学 <sup>8)</sup> で示されている24項目の強み（様々な社会や文化において、大切なものとして考えられてきた気質。創造性、親切、誠実など）の中から、自分がかかっていると思う強みを選ぶ。 |
| 対話 | 選んだ強みについてのエピソードや今後どのような場面で発揮できるかを対話する。強みを意識することができ、生活で生かそうとする気持ちが高まる。                                    |

### 3 実践の内容

#### (1) まりさんのレジリエンス「独立性」

3年生が終わるころから、不安な表情を見せることが多くなったまりさん。チャレンジしてみたいことを見つけても、気持ちが一步引いてしまうときがあった。4年生に進級し、自分の気持ちと向き合うために、対話を通して問題を整理することにした。

#### 対話の教材

○チェックリスト ○吃音の冰山 ○言語関係図

#### 「吃音の冰山」に取り組んだときの対話

担当：吃音の冰山を書いてみて、気付いたことや感じたことがある？

まり：(水面)上は小さいのに、(水面)下は大きい。

担当：本当、あまりどもらないのに、不安な気持ちが大きいんだね。

まり：不安とか、恥ずかしいとか…。最近、そういうのが大きくなってるとる。

担当：そうなんだ。何がまりさんをそうさせているのか、言える？

まり：どもるかもと思うと不安だし、もしどもったら恥ずかしいなあって。

担当：それは、どもりたくないという気持ち？

まり：どもりたくないというか、みんな、私の話し方に気付いているのかなって。

担当：まりさんがどもっていることに友達が気付いているかってこと？

気付いていたら、どう思うの？

まり：変に思っていないかなって心配。

担当：そういう意味の心配や不安なんだね。分かった。そのことを友達に聞いたことはある？

まり：ない。だから、気付いているか分からない。知らないんじゃないかなあ？

担当：そっか。友達がどう思っているか分からないから、不安が大きくなっているんだね。

この(水面)下の問題を小さくするにはどうしたらいいか、考えてみようか。

<中略>

まり：担任の先生は、私の吃音を知ってくれているから安心なんだけどね。

担当：知ってもらっていると、安心なの？

まり：うん。3年生のときに伝えたから、分かってもらっているなあって。

担当：手紙を書いたり、リーフレットを作ったりして、伝えたもんね。

あれ？それって、吃音を知ってくれていれば、安心ということかな。

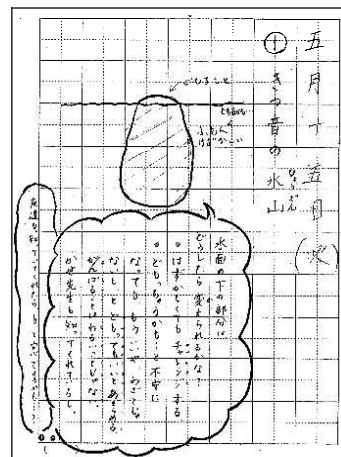
まり：そう。安心できる。

担当：それは、友達にも当てはまること？

自分の話し方を友達がどう思っているか分からないから、不安と言っていたよね。

友達が吃音を知ってくれたとしたら、何か気持ちは変わりそうかな。

まり：ああ、みんなが知ってくれれば、今よりもっと安心できるかも…。



その後も対話を繰り返し、「自分の話し方が変だと思われているかもしれないと考えること」が不安の原因だと、まりさん自身が問題を捉えた。まりさんはクラスの友達に吃音がある自分について伝えることを決め、お互いを理解する学習(学級活動)の中で自分の思いや考えを語った。

### まりさんの語り「知ってほしいな、私のこと」

私は今日まで、吃音のことをみんなに知られたくありませんでした。だから、誰にも言ったことがありません。でも、みんなが私の話し方を変だと思っているかもしれないと、不安が大きくなったので、思い切って伝えることにしました。

私はどもることが恥ずかしくてマイクの発表をしませんでした。友達と話すときも、どもることがばれないように、小さな声で話すことが多かったです。でも、クラスの発表や日直の司会は、頑張っています。友達が誘ってくれて、音楽クラブの卒業生感謝の呼びかけにも立候補しました。

吃音は、私にとって話し方の特徴です。だから、治したくありません。自分らしい話し方だと思っています。今日は、吃音のことをみんなに伝えることができ、すっきりしました。みんなのことももっと知りたいです。このクラスで過ごせるあと半年、よろしくお願いします。

### 振り返り

その後、友達からメッセージをもらった。「前から何かあるとは思っていたけれど、改めてしっかり自分のことを語ってくれてうれしかったよ。これからもお互いの思いをちゃんと伝え合いたい」「吃音が出て大丈夫だから、これからもいっぱい話そう」「吃音というものを知らなかったよ。一生懸命語ってくれて、ありがとう。思いが伝わってきたよ」「みんなの前で自分の特徴や気持ちを語れて、勇気があると思ったよ。今までと同じように仲良くしよう」「初めて吃音を知って、かわいそうだと思ったけれど、そう思う必要はないんだね」メッセージのことば一つ一つを噛みしめるまりさんの顔からは、喜びがこぼれ落ちるようだった。振り返りの作文から、吃音があっても自分らしく過ごすというまりさんの考え方が明らかになり、まりさんのレジリエンス「独立性」を感じた。

### まりさんの作文

みんなからのメッセージを読んで、不安がさっと吹き飛びました。みんな理解してくれているんだなと思って、安心しました。ちゃんと思いが通じ合い、分かり合える仲間だと感じました。安心して、発表もできるようになりました。友達にも自分から喋れるようになりました。友達が知ってくれているからです。

私は、4月から違う学校に通うことになりました。新しい学校で、新しい友達と話するとき、吃音のことが気になるかもしれません。でも、気にするとどんどん不安になってしまうので、気にしないようにしたいです。もし、それでも気になってしまったら、友達に一度、私の喋り方が変だと思っているか聞いてみたいと思います。もし、友達が変だと感じていたら、ゆっくり話せそうなき、吃音のことを伝えたいと思います。ちゃんと伝えれば、理解してくれると思うからです。そうやって少しずつ理解してくれる人を増やしていきたいです。これまでのように、友達に聞かないで、一人で不安になりたくないです。自分で解決できないときは、お母さんに相談したいと思います。

私がみんなに話して分かったことは、一人で考えすぎて不安になるより、人に聞いたり相談したりするほうが、自分には合っているということです。これからも吃音を自分の特徴として生活していきたいです。

### まりさんのその後のエピソード

転出後、まりさんは新しい人間関係を築きながら、楽しく学校生活を送っていることを担任の先生にお聞きした。5月の運動会には開会式の校歌斉唱の指揮者に立候補するほど、積極性も感

じられるとのことだった。小学校卒業間際、まりさんと交流が続いている子どもからも、友達がたくさんいて充実した毎日を送っていると教えてもらった。「独立性」を発揮して自分らしく過ごしていると知り、一緒に学習できたことをうれしく感じた。

## (2) なみさんのレジリエンス「関係性」

5年生の一年間で、雰囲気柔らかくなり、表情が豊かになったなみさん。毎日が楽しく、吃音に対する不安もほとんど消えたという言うなみさんと対話し、その理由を探っていった。

### 対話の教材

#### ○強みのワーク

#### 「強みのワーク」に取り組んだときの対話

担当：一番の強みに「愛情」を選んだんだね。そう思ったエピソードある？

なみ：友達といると楽しいじゃん。やっぱり友達と仲良くするのが好き。

担当：そうね。いい表情しているもんね。友達のこと、どう思っているの？

なみ：大切！大切にしてる。

担当：大切にしているなみさんの気持ち、話していてよく伝わってくるよ。

これからの生活で、「愛情」をこうやって生かそうかなっていうのはある？

なみ：これからも大切にしたい！もう一つ、強みを選んでもいい？

担当：もちろん。何だろう？

なみ：「ユーモア」！

担当：「ユーモア」ね。ああ、分かる。これを選んだ理由は？

なみ：いつも私、明るいでしょ。みんなと笑い合うのが好きだから。

担当：うん。みんなと笑い合うっていいね。毎日友達と楽しく過ごしている中で、吃音はどう？

なみ：ああ、忘れてる。あんまり考えてないかも。あれ？私、最近どもってる？

担当：うん。ことばの教室では今まで通りどもっているよ。

なみ：みんなと仲良くしていたら、忘れた。

担当：忘れちゃったの？吃音は変わらないのに、気持ちがこんなに変わったのはなぜかな。

なみ：友達と仲良くしてると気にならないかも。

担当：そうなの？吃音を忘れるくらい、何がなみさんの心に影響を与えているんだろうね。

なみ：ああ、友達。友達との関係かな。

担当：そっか。友達との関係が安定していると、吃音の不安も減るとのことなんだ。

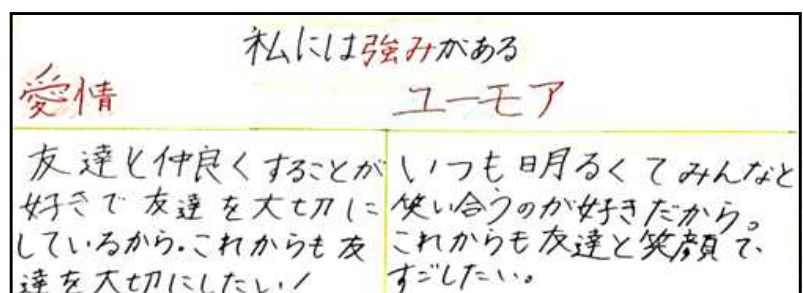
なみさんは対話を通して、豊かな人間関係の結び付きが自分の安心感につながると気付いた。人との関係を大切にする彼女のレジリエンス「関係性」を発見した。ポスターに考えをまとめ、学習発表会で吃音グループの仲間に発表した。

### なみさんのポスター「私と吃音」

(一部抜粋)

「私には強みがある」

学校生活の中で自分の強みを意識しています。楽しく過ごせます。



「一年間を振り返って」

クラス替えをして、最初は緊張していたけど、みんなと仲良くしていたら、吃音を忘れていました。どもるかもという不安は少ないです。どもったら恥ずかしいけど、寝て忘れます。自分は周りの人との関係が安定して安心できると、吃音が気にならなくなるということが分かりました。友達と過ごす楽しい日々をこれからも大切にしていきたいです。

### なみさんのその後のエピソード

リラックスしているときにどもるタイプのなみさん。家庭やことばの教室ではよくどもっていたが、学校では担任の先生も気付かないほどどもらなかった。彼女も「学校ではほとんどどもっていないから大丈夫」だと言っていた。6年生の後期、変化が見られた。最近は学校でもどもっていると言う。今までの彼女なら、吃音に多少なりとも気持ちが揺さぶられていたとを感じるが、友達との安定した関係の中、「どもっているけれど、まあいいか」と思うことができるようになっていたことに驚いた。卒業のとき、未来の自分に宛てて手紙を書いた。中学校に入学して4か月経った今、「関係性」を発揮しながら、この手紙の通り笑顔で毎日を送っている。

《未来…18歳の自分へ》

まだどもっていますか？どのくらいどもっていますか？もし、どもっていたら、落ち込まないで過ごしてください。なんでかって？落ち込んで過ごしていると、楽しめないからです。私は未来の私に楽しく笑顔で過ごしてほしいからです。

私は、ことばの教室で自分と向き合うことが大切だと学びました。そして、私は愛情がある人間だと分かりました。人との思い出やつながりを大切に生きていくことが、元気に過ごせる秘訣です。リラックスして楽しい毎日を送ってください。

### (3) こう君のレジリエンス「イニシアティブ」

3年生に進級してから、みるみる口数が減り、笑顔が消えていったこう君。周りの目を気にするようになり、友達との関わりを避けるようになった。2年が経ち、5年生になった彼は、吃音にとらわれず生活できるようになった。どのような力がついたのかを対話を通して考えていった。

#### 対話の教材

○チェックリスト      ○言語関係図      ○吃音がある仲間との手紙交換

#### 「言語関係図」に取り組んだときの対話

[3年生]  $5 \times 5 \times 3 = 75$     [5年生]  $5 \times 1 \times 1 = 5$

担当：5年生はだいぶ問題が小さくなったんだけど、(3つの軸の中で)何が減ったの？

こう：自分が頑張ったから、Y軸の(みんなからの冷たい)目線が消えた。

担当：頑張ったから(冷たい)目線が消えた。何を頑張ったの？

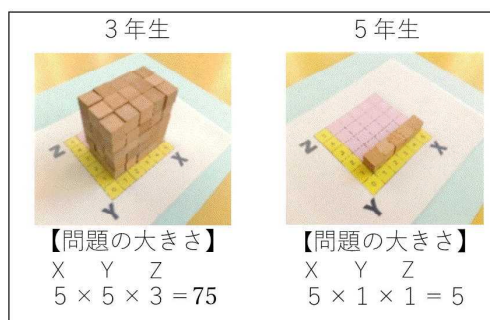
こう：みんなとの会話とか音読とか。いろいろ自分でやったから(冷たい)目線が外れた。

担当：そうかあ。みんなに話しかけ始めたとき、みんなの反応はどうだった？

こう：みんなというか、数人は(話し方を)真似した。

担当：他の人たちは？

こう：なんか、すごい優しい目で(見てくれた)。



担当：わあ、そうなの。話しかけてみて、どうだった？

こう：いろいろ経験できたからよかった。

担当：いろいろ経験したね。いろいろって何？

こう：困ったら人に相談して、作戦をやってみるとか。

担当：なるほど。頑張っていなかったら、今頃どうだったかな。

こう：暗い毎日。勇気を出して、経験してみてよかった。

担当：そうだよね。私もそう思うよ。努力したよね。

今のような安心できる状態が、この先もずっと続きそうかな。

こう：続くと思わない。また（苦しい日）来る。

担当：そうなの？また心を閉ざすような？

苦しいときが来たら、どうやって乗り越えようと思っているのか、考えていることある？

こう：…分からない。できるかな。どうしよう。

担当：例えば、どんなとき苦しくなりそうだと思っているのかな。

こう：クラス替えとか中学校（進学）とか、今の友達じゃない環境（になったとき）。

担当：じゃあ、これからのことを想像して、今の自分にできることを考えてみようか。

こう君は自分の努力で吃音の問題が小さくなったと自信をもつことができた。しかし、今後に漠然とした不安を感じていることに気づき、困難を乗り越える力をつける必要があると考えた。未来の自分や仲間への励まし、勇気付けになるように、彼が考えたり仲間から集めたりしたことばをまとめ、メッセージ集を作ることにした。そして、「仲間がいるよ」とタイトルを付けた。

#### メッセージ集「仲間がいるよ」前書き

ぼくはどもりがあります。どもりをからかわれることがありました。自分の話し方がおかしいのかもしれないと思うようになりました。毎日、友達との会話を避けるようになりました。心の窓を閉めました。でも、お母さんやことばの先生に相談したおかげで、自分から友達に話しかけられるようになりました。心の窓がまた開いて、自分のいる世界が輝いていることに気づきました。しかし、この先心の窓がまた閉まってしまうようなことが起きるかもしれないと思いました。

そこで、不安になったときに対応できる自分になるために、この本を作りました。みなさんも不安なときや元気が足りないとき、この本を手にとってください。不安な気持ちが少しでも楽になればいいなと思います。どもるのは自分だけじゃないから頑張れると思います。この本は、仲間の想いを感じることができるでしょう。仲間がいるよ。

#### こう君のメッセージ \*別紙資料⑧

「どもって、ラッキー！」

困ったとき、人に相談して乗り越える経験ができたから。本当の自分になれた。

「たくさんの見方があるよ」

困っているとき、その出来事を違う方向から見ると、大したことじゃないと思えて、気持ちが落ち着く。

「いい扉を選んだね（いい選択をしたね）」

自分の言動を振り返って、悩んだり後悔したりしたとき、こう考えると、これでよかったと思う。

吃音の仲間にもメッセージ集を読んでもらった。振り返りの対話から、課題に進んで取り組み、



自分に必要な力を高めていこうとする彼のレジリエンス「イニシアティブ」を感じた。同時に、強みを意識することにもつながった。

### メッセージ集「仲間がいるよ」作りを振り返ったときの対話

担当：「仲間がいるよ」をグループの仲間に読んでもらって、何か考えたことがある？

こう：もし不安になっても、このことばを読めば、勇気が出て頑張れそう。

担当：今の自分や仲間の考えが、未来の自分への励ましになるんだね。

自分についてある？

こう：仲間と協力する力。

担当：なぜ、その力だと思うの？今年度はグループ学習ができなかったよね？

こう：仲間と手紙やビデオで交流して、役に立てるようなことができたと思うから。

担当：たしかにそうだね。こう君が下学年のとき、仲間の明るい姿に助けられてきたよね。

こう：5年生になって、自分が仲間を支える立場になってきたのかなと感じる。

担当：うん、立場が変わってきたね。仲間を支える今の自分のことをどう思っている？

こう：まあいいけど、完璧じゃない。完璧だと自分で思うと、それ以上成長しない。

だから、自分には欠けているところがある。

だからといって、自分が嫌いとか、だめだということはないけど…。

担当：それは…欠けているところがあったら補いたい、ということ？

こう：そういうこと。できたら、少しでも補うために頑張りたい。僕には補える力があると思う。

担当：もっとよくなりたいたいという気持ちは、向上心ということばで表せるよ。どうかな。

こう：そう、向上心がある。欠けているところは補って、良いところは伸ばしたい。

担当：向上心という強みがあるこう君、いいね。私も大切なことだと思うな。

### こう君のその後のエピソード

6年生に進級した彼と対話する中で、中学校入学に対する不安をもっていることに気付いた。新しい環境に身を置いたとき、吃音を真似されたり笑われたりするのではないかと。メッセージ集「仲間がいるよ」をそっと机に置いた。前書きや自分と仲間のメッセージを読み終わると、「そうだった。自分には乗り越える力があるんだ」と表情が明るくなった。委員会の委員長になったものみんなを上手くまとめられないと悩んだり、何度やめろと言っても同じ友達に話し方を指摘されるとぼやいたりしながら、一年間のいろいろな経験の中で「イニシアティブ」を發揮しながら成長していく姿は、私の目にとっても眩しく映った。

ことばの教室を卒業する日、吃音グループの仲間に「成長する僕」というタイトルで自分の6年間を語り、清々しい表情で巣立っていった。

《成長する僕》(一部)

1年生「吃音を自覚していない」

吃音を知らなかった。話すことを気にしていなかった。2月にことばの教室に入った。

2年生「吃音を知った」

ことばの教室で吃音を学んだ。どきどきわくわくすると、たくさんどもると考えていた。

吃音の勉強が楽しかった。

3年生「誰とも話せなくなった」

この頃から一言一言どもるようになり、友達と話したかったけど、どもるのが怖くて話

せなくなった。とても寂しい気持ちだった。

#### 4年生「心境の変化」

自分から勇気を出して友達に話しかけた。徐々に話せるようになり、不安が消えた。悩んだときには人に相談して、行動してみるとよい結果になるということが分かった。

#### 5年生「いろいろな見方」

困ったときや不安なときは、別の視点から改めて考え、解決できるようになった。メッセージ集「仲間がいるよ」を作って、自分と違う考えや同じ考えを知った。吃音の仲間がたくさんいることを感じてうれしかった。

#### 6年生「自由な言葉」

一番楽しい一年だった。人間関係が深まって友達とたくさん喋れるようになり、心が元気になった。今までの自分とは違うと思った。この一年が一番成長できた。

6年間を振り返って、僕は自分の成長に気付くことができた。6年間で大きく成長した理由は、勇気を出して行動し続けたからだと思う。中学生になっても勇気を出して行動し続けたい。

## 4 おわりに

これまでの対話を振り返ってみると、初めは「担当者として、子どもにこういう力をつけたい」との気持ちが強く、それが却って子どものことばを消してしまっていた。子どもに寄り添い、対等の立場で一緒に考えていけるようになったことで、子どもの心の声がかたよとなって表れ始めたように感じる。対話の中では、子どもと担当者という関係から解放された「対等性」が大切であることを実感した。

ゆっくり時間をかけ、ことばそのものを受け止めながら、お互いにことばをつなぐ中で、予想もしなかった考えが子どもから出てくる驚くような瞬間が何度もあった。子どもには本来もっている力があり、担当者にできることは、それを共に見つけ、引き出すことだと気付かされた。対話を繰り返す中で、「応答性」の意味を子どもから教わったように思う。

ゴールが決まっていない対話の道を進むことは、わくわくするが、時に迷ってしまう。しかし、「不確実性への耐性」の心で結果を急がず、何かが生み出されると信じて対話を続けていったことが、結果として、子どもが「自分で何とかやっつけていけそうだ」というしなやかな考えをもつことにつながったのではないかと考える。対話を通して成長していく子どもの姿から、どのような環境に置かれても、自身の力で自分らしく生きていける、そんなたくましさを感じた。

「ことばの教室は、自分の話ができるところだから行きたい」そう言って家を出るのだと、こう君のこのことばを母親が教えてくれた。これからも対話を楽しみながら、一人一人の中にあるレジリエンスを子どもと一緒に発見し、育てていきたい。

## 文献

- 1) 吃音を生きる子どもに同行する教師・言語聴覚士の会  
「第4回 親、教師、言語聴覚士のための吃音講習会資料」2015
- 2) 斎藤環「オープンダイアログとは何か」医学書院 2015
- 3) 井庭崇・他「対話のことは オープンダイアログに学ぶ問題解消のための対話の心得」丸善出版 2018
- 4) 日本吃音臨床研究会「学習・どもりカルタ」 2010
- 5) 吃音を生きる子どもに同行する教師・言語聴覚士の会  
「第7回 親、教師、言語聴覚士のための吃音講習会資料」2018
- 6) 伊藤伸二・吃音を生きる子どもに同行する教師の会  
「親、教師、言語聴覚士が使える吃音ワークブック」解放出版社 2013
- 7) 日本ポジティブ教育協会「イラスト版子どものためのポジティブ心理学」合同出版 2017
- 8) リー・ウォータース「ストレングス・スイッチ 子どもの強みを伸ばすポジティブ心理学」  
光文社 2018
- 9) 伊藤伸二・国重浩一「どもる子どもとの対話 ナラティブアプローチがひきだす物語る力」金子書房 2018

別紙資料

① 市販の「学習・どもりカルタ」で遊ぶ



にっこりと笑ってどもったら気持ちが楽だったし、相手も気にしないで聞いてくれたような気がする。どもる態度で、自分も相手も変わるのかなと思った。

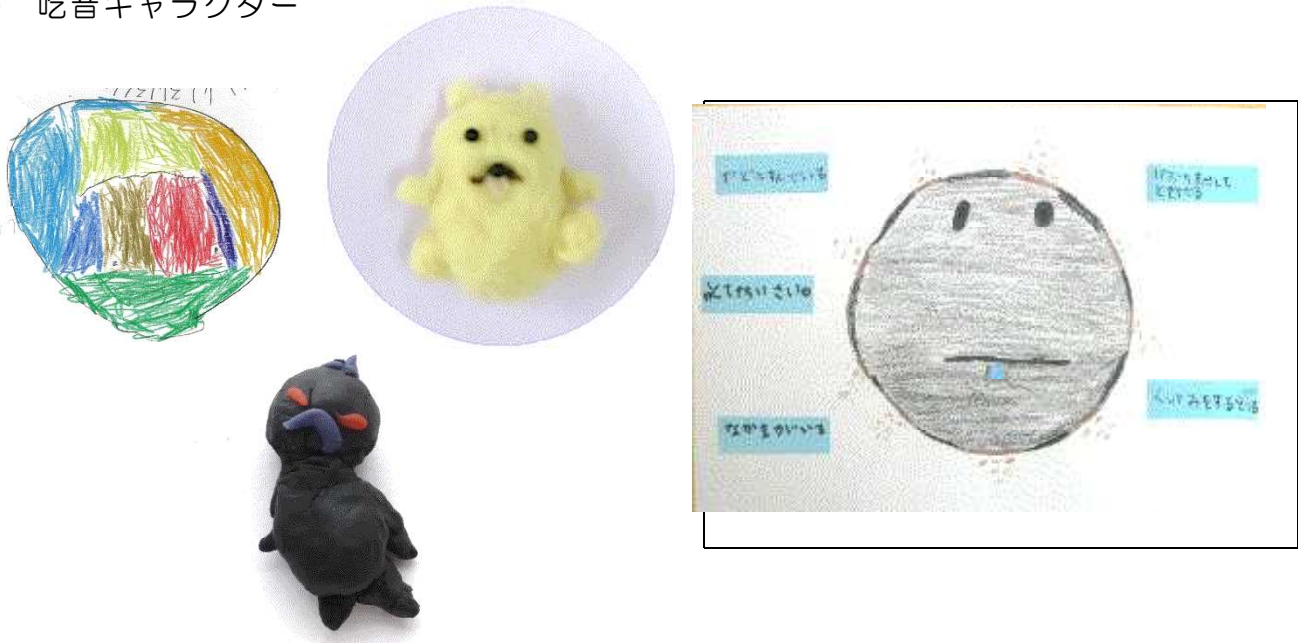
② 自分の吃音カルタを作る

いつもたくさんどもるので、疲れてしまう。話すのが、嫌になる。



グループ学習で、どもる仲間に出会った。どもるのは、ぼく一人じゃないと思えた。仲間のことばに何度も励まされた。

③ 吃音キャラクター



#### ④ 吃音のチェックリスト

##### ワーク④ 行動のチェックリスト

次の項目で、当てはまるものに○をつけましょう。  
よく避ける○ ○ときどき避ける○ ○避けない△

- ① 家の人から頼まれた連絡を先生にことばで伝える
- ② 授業中答えが分かったとき、自分から進んで発言
- ③ 大切な用件を担当でない先生に話すこと
- ④ 家に電話がかかってきたとき、その電話をとる
- ⑤ 電話で友だちと会う時刻や場所を告げること
- ⑥ 話すことが多い役割、学級委員や放送委員など
- ⑦ ことばで注文しなければならぬ店や買い物をする
- ⑧ 初めて会った人に自分のほうからあいさつをする
- ⑨ 子ども会、ボーイスカウト、スポーツクラブに参加すること
- ⑩ 子ども会、ボーイスカウト、スポーツクラブに参加を断ること
- ⑪ 家族が出るかもしれない友だちの家に電話をかける
- ⑫ 保健室や病院で、自分のけがや病気について話す
- ⑬ クラスの中で中隊長になること
- ⑭ 「誰か読みたい人？」と言われたとき、進んで手紙を出す
- ⑮ 学習発表会やお楽しみ会などで、みんなの前へ目線などで号令をかけること
- ⑯ 指名されたとき、答えが分かっていたら、それを書く
- ⑰ 友だちに朝や帰りのあいさつをすること
- ⑱ 自分でお店の人に注文すること
- ⑲ 友だちの家などのインターホンで自分の名前を呼ぶ

##### ワーク④ 対人関係・人間関係のチェックリスト

次の項目で、当てはまるものに○をつけましょう。  
とてもそう○ ○そう ○そうではない△  
これは、自分のことを知るために行うもので、それぞれの質問に正しい答えはありません。ありのままを答えましょう。

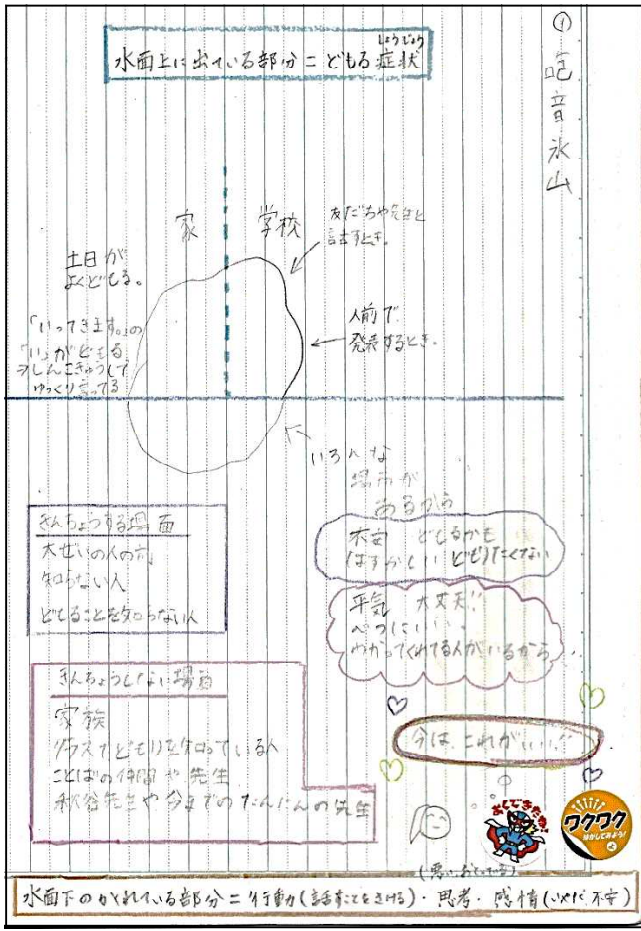
- ① 休みの日は、ひとりで遊ぶことが多いです
- ② 運動会や遠足などの行事が好きです
- ③ 困ったり悩んだりしたとき、友だちに相談します
- ④ 困ったり悩んだりしたとき、家族に相談します
- ⑤ 困ったり悩んだりしたとき、先生に相談します
- ⑥ みんなが楽しんでいるとき、自分だけ楽しくない(つまらない)ときがあります
- ⑦ 私は冗談やおもしろいことをよく言います
- ⑧ おもしろいときや楽しいとき、声を出して笑います
- ⑨ 学校の休み時間、ひとりでいることが多いです
- ⑩ 学校からいっしょに帰ったり、放課後一緒に遊んだりする友だちがいます
- ⑪ クラス替えがあったとき、自分から進んで新しい友だちをつくらせます
- ⑫ 友だちは私のことをおとなしいと、思っていると思います
- ⑬ 家で学校の話を友だちの話をよくします
- ⑭ 近所の人に会ったとき、あいさつをします
- ⑮ 親戚の人やお客さんが来たとき、進んであいさつをします
- ⑯ 学校へ行ったら友だちに自分から進んであいさつをします
- ⑰ 自分からグループをつくることがあります
- ⑱ グループをつくる時、すぐに仲間に入れてもらえます
- ⑲ 友だちにからかわれたり笑われたりすることがあります
- ⑳ 笑われたりからかわれたりしたとき「やめ」と言います
- ㉑ 本当に驚かされたとき、我慢しないでそのことを相手に言います
- ㉒ 班長や係のリーダーなどに立候補することが多いです
- ㉓ 自分から誘うより、誘われて遊ぶほうが多いです
- ㉔ 私の吃音について分かってくれる友だちや味方になってくれる友だちがいます

##### ワーク④ 吃音に対する気持ちや考えのチェックリスト

どまわりについて感じていること○をつけましょう。  
とてもそう○ ○そう ○そうではない△

- ① 吃音で友だちからいじめられることがある
- ② 吃音で友だちからいじめられるのが、とても不安に思う
- ③ 吃音でいじめられるのは、有害な悪い人ばかりだからと思う
- ④ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ⑤ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ⑥ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ⑦ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ⑧ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ⑨ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ⑩ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ⑪ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ⑫ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ⑬ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ⑭ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ⑮ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ⑯ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ⑰ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ⑱ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ⑲ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ⑳ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㉑ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㉒ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㉓ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㉔ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㉕ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㉖ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㉗ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㉘ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㉙ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㉚ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㉛ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㉜ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㉝ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㉞ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㉟ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㊱ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㊲ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㊳ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㊴ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㊵ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㊶ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㊷ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㊸ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㊹ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㊺ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㊻ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㊼ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㊽ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㊾ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う
- ㊿ 吃音でいじめられるのは、自分だけ悪い人だからだと思う

#### ⑤ 吃音の冰山



六月十日火曜日

吃音の症状

水上に出ている部分 = 吃音の症状

水面下の隠れている部分 = 行動(話すこと)・思考・感情(心)に不安

土日がよくなる

人前で発表するとき

家族

先生

友達

吃音の症状

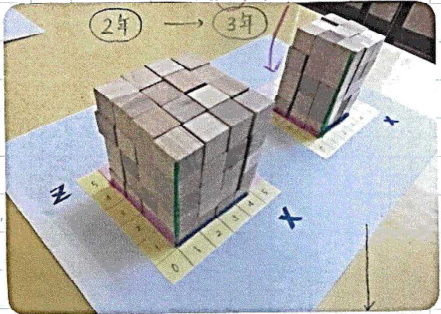
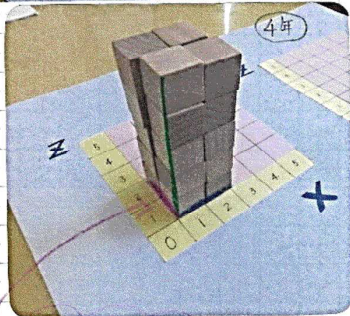
水上に出ている部分 = 吃音の症状

水面下の隠れている部分 = 行動(話すこと)・思考・感情(心)に不安



⑥ 言語関係図

① 言語関係図

ことばの教室で、ともし  
友達に 出会う。  
ともしことばを知り始めるから  
この音に対する気持が  
変わってきた。

2年 → 3年

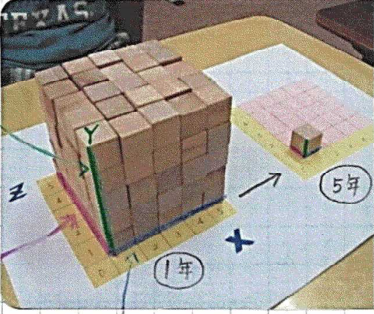
4年

5年

ともしは「なぜはいけれど」  
敬持ちは「自分」変えられる

ともし人の音をも聞いて...  
春花は  
ゆめは  
千穂は

② 言語関係図



自分がどれくらいともしの  
相談できる場所もある

ともしの仲間にかぶれたから  
うれしくて、不安が減った  
ほぐすのはいい

なぜ問題が小さくなったか  
ともしの仲間にかぶれたから  
うれしくて、不安が減った  
ほぐすのはいい

自分が吃音そのこと  
聞くと  
ともしの反応が

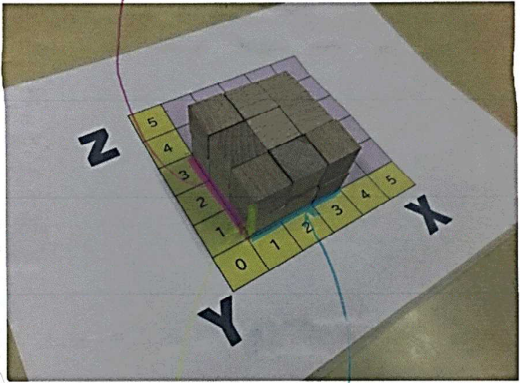
みんなにふつうにともしのことを  
言ったらわかるから、  
大丈夫です。→ 13. ともし  
少し大丈夫になるけれど  
大丈夫でもないかな、と思える。

もし、お母さんが大きくなり  
たら...  
ポジティブに考える！  
まず、お母さん  
自分の考え方を考える！  
お母さんたちに相談する。  
わがままを言う。  
言う努力をする。

仲間はいるけど  
知る。  
↑  
心算。  
自分だけではない。  
みんなも  
あるんだ。

かわりも、お母さん  
わかってから、それ以上  
言えない。

Z: ともしをどう思っているか。  
ともしと仲間関係... 何か意外と気が合う  
友達といる。お母さんと思える。  
お母さん。0のともし1のともしもある。



Y: お母さんの  
みんなが気にしている。  
ともしのことを知らない子  
もいるけれど、クラスの子は  
ほぼ知っている。  
ことばの教室に行くと  
いることを知っている。

X: ともしの仲間  
前にお母さん  
学校に行くと  
お母さんに  
「あ、お母さんあ  
」  
気にしている  
お母さんお母さん

八月二十五日 火曜日 佳音





⑧ メッセージ集「仲間がいるよ」こう君のメッセージ

どもってラッキー!!

あけ → (自分)

エピソード

困った時に誰かに相談して  
味方になってもらった経験ができた  
からです。

本当の自分になれた。

自分から人に相談  
することか、できて  
いいと思います。

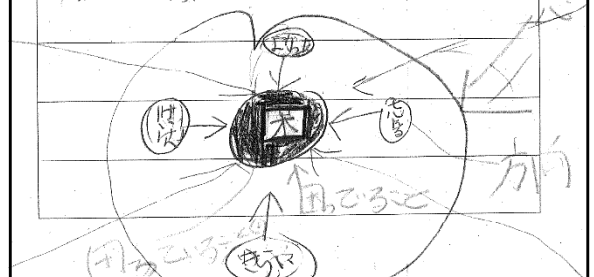
自分から相談  
するのは、いいと思  
います。(1人では、どう  
もしてるとは、言いた  
くない)

この是を  
びくりに  
しるか

たしさんの見方が  
あるよ

エピソード

困っている時ちがう方向  
から見ると 大したことじゃないと  
思え気が落ちる。



いし)扉をえらん  
だね。(せんだ)

エピソード

やったことや言ったこと  
これでよかったのかと  
なやんだりこうかいたり  
したとき、この言葉をいって  
これでよかったと思うから。

なやんだりしたとき  
でも、大丈夫と思  
います。